

第5章

地域別振興方策

05

1 農林業・農山村の概要(現状と課題)

①「長崎西彼地域」の農業

○長崎西彼地域(長崎市、西海市、長与町、時津町)は、地形が複雑で起伏に富み、中山間地域が多く、総土地面積69,712haのうち7.1%にあたる4,963haが耕地となっています。本地域の農業は、海岸沿いでは温暖な気候を利用して、温州みかんや生産量全国一を誇るびわなどの果実類が盛んに生産されています。また、畜産も盛んであり、大規模な肉用牛・養豚経営が営まれています。



特産のびわ園地(長崎市)

- このような中、令和6年度時点での農地の整備率は、水田で49%(県平均62%)、畑10%(県平均25%)と県平均を下回っており、農家数の減少、高齢化が加速化していることから、農地の基盤整備とともに担い手へ農地を集積し、経営規模拡大によって産地を維持していく取組が必要です。
- また、JA研修機関を核として、産地一体となった担い手確保・育成の仕組みづくりを進めながら、樹園地の継承に加え、園芸主体の経営体による新たな産地の形成や、環境と調和した収益性の高い畜産経営の推進を通じて、地域の重要な基幹産業となる農業を確立する必要があります。

②「県央地域」の農業

○県央地域(諫早市、大村市、東彼杵町、川棚町、波佐見町)は、総土地面積63,597haのうち16%に当たる9,905haの耕地を有しており、平野部から中山間とさまざまな地形条件を活かして、水稻、麦、大豆、野菜類、果実類、花き、茶等の工芸作物、肉用牛、豚、酪農等多様な農業が営まれています。



茶園(東彼杵町)

- 特に麦類の作付面積は県全体の51%(令和4年)と県内でも有数の産地となっています。
- 諫早湾干拓地や小野・森山地域の水田地帯、大村・東彼杵地域の平坦地や多良岳山麓及び橘湾に面した丘陵地帯においては、農地の基盤整備が進んでおり、令和6年度時点の農地整備率は、水田81%、畑56%と県平均を上回る状況となっていますが、農家戸数は減少しており、担い手の高齢化が進んでいます。
- このため、平坦な穀倉地帯や、ほ場整備、畑地かんがい施設の整備が行われた畑地帯及び諫早湾干拓等を中心として、産地の維持・拡大を図るため、引き続き、農地の基盤整備を進めるとともに、新たな担い手となる新規就農者を確保・育成する必要があります。

③「諫早湾干拓」の農業

- 諫早湾干拓地では、666haの農地に大規模経営体が野菜、花き、飼料作物等を栽培しています。
- 安全・安心な農産物を供給する一大産地を形成するため、「み



単棟ハウスによるレタス栽培(諫早湾干拓地)

どりの食料システム戦略」の理念に基づき、長崎県特別栽培農産物、有機JAS農産物の認証、または特別栽培と同じレベルの環境保全型農業直接支払交付金を活用した環境保全型農業の取組を行っています。

- 令和6年度は35品目、延べ収穫済面積1,136haの農産物が栽培され、耕地利用率は182%と県平均の約2倍となっています。

④森林・林業

- 管内総土地面積の50%を森林が占め、その内訳は、国有林6,015ha、民有林61,143ha（公有林8,329ha、私有林52,814ha）となっています。
- また、管内の民有林の人工林率は約47%で、県平均42%より高く、10齢級以上が81%を占めており、本格的な利用期を迎えています。特に、多良山系は土地生産力が高く、県内でも有数の木材生産地となっており、木材流通加工の拠点となっています。
- また、大村湾西岸の西彼杵半島を主とする低山地帯は、年輪幅の詰まった良質なヒノキが生産されています。
- しかしながら、手入れが十分に行われていない森林もあり、森林の有する多面的機能を高度に発揮させるためにも、計画的な森林整備を進める必要があります。



整備された路網による森林施業（西海市）

2 長崎西彼・県央地域の農林業・農山村の将来像

- 長崎西彼・県央地域では、中山間地域を中心に温州みかんや生産量全国一を誇るびわ等の果樹や茶が生産され、平地を中心に水稻、麦、大豆、野菜、花き等の生産や肉用牛、養豚、酪農が行われているほか、諫早湾干拓地では大規模経営体により野菜、花き、飼料作物などが生産されています。また、県内でも有数の木材生産地となっています。
- 新規就農・就業者の確保のため、JA研修機関や農業大学校・農業高校等と連携し、農家研修や各種就農情報の提供など就農意欲を高める取組を行いながら、関係機関と産地が一体となって新規就農・就業者の確保・定着を支援します。
- 農業就業人口の減少などによる労力不足に対応するため、外国人等多様な人材の活用推進を図ります。また、管内、県内、他県産地との産地間連携による周年雇用体制の確立により労力支援体制の強化を図ります。
- 園芸作物・畜産においては、ICT等を活用したスマート農業の導入、生産基盤整備の加速化など生産性の高い産地の育成により、農業所得の向上を図ります。
- 各地域において作成された地域計画を随時更新しながら、農地中間管理事業等を活用して、担い手への農地集積・団地化を図るとともに、生産基盤の整備を進めていきます。
- 西彼杵半島や多良山系の森林を、木材生産の拠点や地域住民への憩いの場とし、また、水源かん養など多面的機能を発揮させる等多様な森林づくりを目指します。
- 「県産木材の生産拡大と林業就業者の確保・育成」を重点課題とし、林業関係者、関連産業、関係機関、市町と連携しながら、新規林業就業者の確保と育成に努め、事業量の拡大により林業就業者の所得向上を図ります。また、林業版産地計画に基づき搬出間伐等の森林整備を推進し、県産木材の生産を拡大させる取組を促進します。
- 中山間地域の集落においては、森林や農山村の持つ多面的機能の維持・保全を図り、安心して暮らしやすい環境を整備するとともに、都市との交流・協働など、集落ぐるみでの受入体制を整備し、集落の魅力や生活環境を発信し、移住・定住を促進し集落の維持・活性化を図ります。

3 地域別・産地別の戦略の展開（県央振興局）

地域	長崎西彼			
名称	活力ある果樹産地の維持・活性化			
内容	<p>○かんきつ産地の維持・活性化に向け、新規就農者呼び込む産地を育成するとともに、樹園地継承による担い手への園地集積及び基盤整備等の条件整備により栽培面積を確保します。</p> <p>○気候変動に対応した高品質安定生産技術等の導入による生産性向上、優良品種の導入面積拡大、雇用労力の確保による産地維持・育成に取り組みます。</p> <p>○びわ産地の維持に向けて、低樹高化・ドローン防除等による省力化、担い手の確保・育成やパッケージセンターによる共選へ取り組み、大玉で良食味品種「なつたより」の生産量確保に取り組みます。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化に加え、園地が未整備で借り手がないため荒廃農地が拡大 ・気候変動の影響により生産量が減少 ・園地の多くが急傾斜地であるため労働生産性が低い </div> <div style="flex-grow: 1;"> <p style="text-align: center;">【地域の対応と成果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>樹園地基盤整備及び樹園地継承体制の構築</p> <p>気候変動に対応した栽培技術及び経営支援</p> <p>スマート農業等の導入</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>園地集積・継承による担い手の確保・規模拡大</p> <p>産地生産力の維持</p> <p>生産出荷作業の省力化</p> </div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <p>果樹産地の維持・活性化</p> <p>中山間地帯における</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	新規就農者数	28人	30人	令和6年
	産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数	1産地	17産地	令和6年
	産地計画策定産地における樹園地継承面積	10.6ha	21.0ha	令和6年
	担い手の農地利用集積率（県全体）	47%	70%	令和6年
	畑地の整備面積（長崎西彼・県央地域計）	1,881ha	1,987ha	令和6年

地域	長崎西彼			
名称	肉用牛及び養豚経営の担い手確保と生産基盤の維持・強化			
内容	<p>○畜産クラスター計画に基づき、産地と一体となった担い手の確保をはじめ、飼養管理施設の整備や機械の導入等支援を通じて、持続的で次世代に継承可能な生産基盤の維持・強化を図ります。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料をはじめ生産資材価格等の高止まりによる収益性低下 ・経営者の高齢化に伴う労力不足 ・多産系母豚の導入は進んでいるが生産性のさらなる向上が必要 </div> <div style="flex-grow: 1;"> <p style="text-align: center;">【地域の対応と成果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>飼養管理指導、資金繰り対策支援</p> <p>ICT機器の活用推進</p> <p>多産系母豚の能力発揮のため、技術向上勉強会の開催</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>生産性向上、経営改善</p> <p>生産性向上、労力軽減→規模拡大</p> <p>生産性向上</p> </div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <p>肉用牛及び養豚生産</p> <p>基盤の強化</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）	391日	380日	令和5年
	肥育牛（肉専用種）の枝肉重量の増加（肉用牛）	516kg	530kg	令和5年
	母豚1頭当たり年間肉豚出荷頭数	22.7頭	25.0頭	令和5年

地域	県央			
名称	省力化・労力支援による露地園芸産地の強化			
内容	<p>○基盤整備地での計画的なばれいしょ・にんじんの生産に向け、省力化機械、スマート技術の導入を進めるとともに、規模拡大意向者や新規就農者への支援を行います。</p> <p>○関係機関と連携し、多様な人材を活用した労力支援体制の構築に取り組みます。</p> <p>○市場ニーズに対応した定時・定量・定質（高品質）の出荷体制の実現に向け、気候変動に対応した品種や技術の導入を図り、安定したばれいしょ・にんじん産地の維持・拡大を図ります。</p>			
	<p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の減少、雇用の確保が難しくなっており、計画的な生産ができていない ・気候変動の影響により生産量が減少 <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 省力化機械、スマート技術等の導入 → 作業の省力化・効率化規模拡大 雇用確保体制の整備 → 産地・栽培面積の維持・拡大 気候変動に対応した資材や新品種の導入 → 生産量の安定・増加 <p>【目指す姿】</p> <p>基盤整備露地園芸産地の維持・強化</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数	0産地	24産地	令和6年
	畑地の整備面積（長崎西彼・県央地域計）	1,881ha	1,987ha	令和6年

地域	長崎西彼・県央			
名称	気候変動対策とスマート農業など新技術導入による生産性向上と水田農業の維持・強化			
内容	<p>○気候変動に対応した水稻高温耐性品種の作付体系の構築を図り、地域に適した高温耐性品種を推進します。</p> <p>○省力低コスト技術やスマート機械の導入等、新技術の推進により、担い手の規模拡大を支援し、生産量の維持を図ります。</p> <p>○大豆・麦については、一工程播種等省力技術による労働生産性の向上や、実需者ニーズに応じた新品種等の導入により、作付維持及び所得向上を図ります。</p> <p>○担い手の不足する地区等では、集落営農組織や農作業受託組織等を支援し、耕作面積の維持を図ります。</p>			
	<p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動の影響による水稻、麦、大豆の収量・品質低下 ・生産者の高齢化や担い手の減少により栽培面積が減少し、生産量が減少 ・意欲ある担い手の規模拡大に伴う労力等の不足 ・集落営農法人・組織等の高齢化・人材不足等により、経営面積は縮小傾向 <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高温耐性品種作付体系の構築（ヒノヒカリ後継品種選定）支援 → 収量・品質の向上 直播栽培、高密度播種技術、スマート農業機械の普及 → 省力化・低コスト化生産量の維持 集落営農組織の話し合い推進支援 → 受益面積の維持 <p>【目指す姿】</p> <p>規模拡大担い手と水田農業の維持・強化</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	ヒノヒカリ同熟期の高温耐性品種の選定	0品種	1品種	令和5年
	水稻栽培における省力・低コスト技術の導入面積（長崎西彼・県央地域合計）	44.7ha	300ha	令和6年
	集落営農法人・組織の受益面積（長崎西彼・県央地域計）	741ha	741ha	令和5年

地域	長崎西彼・県央			
名称	産地の維持・拡大に向けた新規就農・就業者の確保・育成			
内容	<p>○新規就農・就業者確保のため、JA 研修機関や農業大学校・農業高校等と連携し、農家研修や各種就農情報の提供など、就農意欲を高める取組を行いながら、JA、産地、農業法人、関係機関と一体となって新規就農・就業者の確保・育成に取り組みます。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #f08080; margin: 0;">地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA 研修機関が発し担い手の育成を行っているものの、依然として新規就農者、就業者等の担い手は不足している ・農業者の高齢化による産地縮小 ・農業を取り巻く環境は厳しく、就農後の経営安定までに時間がかかる就農者もいる </div> <div style="margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #f08080; margin: 0;">【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> JA 研修機関の新規就農者育成への支援 → 産地の維持拡大 産地受入体制の強化 → 産地の維持拡大 関係機関が一体となった就農支援とフォローアップ → 新規就農、就業者の経営確立と定着 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #f08080; margin: 0;">【目指す姿】</p> <p style="text-align: center; background-color: #f08080; color: white; padding: 5px;">新規就農者の増加</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	新規就農者数（長崎西彼・県央地域計）	79人	87人	令和6年
	産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数（長崎西彼・県央地域計）	1産地	41産地	令和6年

地域	長崎西彼・県央			
名称	スマート農業などの新技術導入や高温対策による生産性の向上			
内容	<p>【施設野菜】</p> <p>○いちごの炭酸ガス局所施用などの環境制御技術の普及と高度化により単収向上を図ります。</p> <p>○自動灌水等の省力機械の導入により生産性の向上を図ります。</p> <p>【施設花き】</p> <p>○環境制御技術の導入により単収・品質を向上させることで経営改善、所得向上を図ります。</p> <p>○近年の気候変動による夏秋期の高温対策に取り組み、高品質安定生産を図ります。</p> <p>○省力化及び環境負荷低減のため、光防除など物理的防除等の導入に取り組み、労力低減及びグリーンな栽培体系の確立を図ります。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #90ee90; margin: 0;">地域の取組</p> <p>【課題】</p> <p>施設野菜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境制御技術導入が進み一部高度化している。 ・自動灌水装置等の省力機械が徐々に導入されている ・気候変動による各種障害の発生 <p>施設花き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境制御技術の新規品目への導入 ・夏秋期の高温対策 ・農業者の高齢化による労力不足 </div> <div style="margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #90ee90; margin: 0;">【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境制御技術の普及と高度化推進 → 単収向上 自動灌水等の省力機械の導入 → 生産性の向上 環境制御技術導入 → 単収・品質向上 気候変動対策実施 → 高品質安定生産 光防除など物理的防除の導入 → 労力低減 グリーンな栽培体系確立 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #90ee90; margin: 0;">【目指す姿】</p> <p style="text-align: center; background-color: #90ee90; color: white; padding: 5px;">経営改善及び所得向上 施設園芸農家の</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	施設野菜における環境制御技術導入面積（長崎西彼・県央地域計）	18.5ha	23.2ha	令和6年
	施設花きにおける環境制御技術等導入面積（長崎西彼・県央地域計）	15.3ha	32.5ha	令和5年

地域	県央			
名称	活力あるみかん産地の育成			
内容	<p>○収益確保のため、優良品種への新改植、苗木の早期成園化、気候変動対応技術の導入により、単収向上を図ります。また、樹園地の基盤整備推進やスマート農業等導入により、労働生産性の向上を図ります。</p> <p>○リタイヤする生産者の樹園地継承意向を把握し、規模拡大希望者への流動化及び新規就農者に対する技術指導を中心とした定着支援や、樹園地継承体制を構築することにより、産地の維持・活性化を図ります。</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	新規就農者数	51人	57人	令和6年
	産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数	0産地	24産地	令和6年
	産地計画策定産地における樹園地継承面積	4.0ha	6.2ha	令和6年
	担い手の農地利用集積率（県全体）	47%	70%	令和6年
	畑地の整備面積（長崎西彼・県央地域計）	1,881ha	1,987ha	令和6年

地域	県央			
名称	日本一の茶産地におけるブランド確立や輸出拡大等による販売力強化			
内容	<p>○茶産地の維持・発展のため、茶業経営の協業化や製茶工場の再編を図るとともに、てん茶※1等の安定生産・販売や、輸出相手国の残留農薬基準への対応に取り組むことで、輸出に対応した生産体制を整備します。</p> <p>○全国茶品評会等の最高賞獲得に向けた品質向上の取組と、優良品種への改植に取り組み、ブランド確立による販売拡大を目指します。</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	輸出に適応した茶園面積の拡大	10.7ha	50.0ha	令和5年
	農産物の輸出額（県全体）	8.5億円	15.0億円	令和5年

※1 てん茶：抹茶の原料で、てん茶を粉に挽いたものが抹茶。被覆栽培した茶の生葉を蒸して、揉まずに乾燥したもの。

地域	県央																
名称	畜産クラスター計画に基づく肉用牛及び養豚の生産性向上																
内容	<p>○肉用牛繁殖経営において、繁殖雌牛の適期授精、適期更新の徹底等による分娩間隔の短縮を目指します。</p> <p>○肉用牛肥育経営において、前期粗飼料多給等による枝肉重量の増加を目指します。</p> <p>○養豚経営において、母豚の適期更新、暑熱ストレスの緩和等による肉豚出荷頭数の増加を目指します。</p>																
	<p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩間隔の長期化による子牛出荷率の低下（繁殖牛） ・枝肉重量のバラツキによる所得率の低下（肥育牛） ・気候変動の影響に伴う暑熱ストレスによる生産性の低下（養豚） <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 適期授精、適期更新の徹底等による飼養管理改善 → 分娩間隔の短縮、子牛出荷率の増加 前期粗飼料多給等による枝肉重量確保 → 枝肉重量の増加 適期更新、暑熱ストレスの緩和等による飼養管理改善 → 母豚1頭当たり肉豚出荷頭数の増加 <p>【目指す姿】</p> <p>肉用牛と養豚の生産性向上による持続的な畜産経営の確立</p>																
KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状</th> <th>令和12年度</th> <th>現状年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）</td> <td>407日</td> <td>380日</td> <td>令和5年</td> </tr> <tr> <td>肥育牛（肉専用種）の枝肉重量の増加（肉用牛）</td> <td>512kg</td> <td>530kg</td> <td>令和5年</td> </tr> <tr> <td>母豚1頭当たり年間肉豚出荷頭数</td> <td>22.7頭</td> <td>25.0頭</td> <td>令和5年</td> </tr> </tbody> </table>		現状	令和12年度	現状年度	繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）	407日	380日	令和5年	肥育牛（肉専用種）の枝肉重量の増加（肉用牛）	512kg	530kg	令和5年	母豚1頭当たり年間肉豚出荷頭数	22.7頭	25.0頭	令和5年
	現状	令和12年度	現状年度														
繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）	407日	380日	令和5年														
肥育牛（肉専用種）の枝肉重量の増加（肉用牛）	512kg	530kg	令和5年														
母豚1頭当たり年間肉豚出荷頭数	22.7頭	25.0頭	令和5年														

地域	諫早湾干拓								
名称	環境と調和した大規模農業の推進								
内容	<p>○環境負荷低減の取組を推進するとともに、平坦かつ大区画圃場の優位性を活かした生産性の高い農業を目指します。</p>								
	<p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業の取組が求められているが、気候変動の影響により病害虫対策に苦慮 ・野生動物による農作物被害 ・経営の安定化が図られているが、大規模経営をマネジメントする経営管理能力向上が必要 <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 気候変動に対応した栽培技術及び経営支援 → 環境保全型農業における生産安定 3対策（防護・棲み分け・捕獲）の実践支援 → 被害減少による生産性向上 経営管理能力の向上 → 大規模経営体の経営安定 <p>【目指す姿】</p> <p>環境と調和した生産性の高い大規模農業の展開</p>								
KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状</th> <th>令和12年度</th> <th>現状年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有機・特別栽培の実面積</td> <td>545ha</td> <td>625ha</td> <td>令和6年</td> </tr> </tbody> </table>		現状	令和12年度	現状年度	有機・特別栽培の実面積	545ha	625ha	令和6年
	現状	令和12年度	現状年度						
有機・特別栽培の実面積	545ha	625ha	令和6年						

地域	長崎西彼・県央			
名称	「集落支援対策」推進による農山村地域の活性化			
内容	<p>○農業・農山村が有する多面的機能が発揮できるよう、地域資源の共同保全活動や中山間地域等における農業生産活動を支援します。</p> <p>○直売所間の連携やこだわりの製品づくりなどで直売所の販売力を強化するとともに、移住者と地元住民が力を合わせて地域ぐるみで稼ぐ体制を構築します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 30%;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農山村地域の高齢化が進行し、集落機能が低下する集落が増加 直売所全体の販売額はインバウンドの増加等により増加傾向にあるが、品数の充実が必要 移住者と地元住民による農業体験や農泊等への取組が始まっており、連携強化と担い手確保が必要 </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【地域の対応と成果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 30%;"> <p>保全作業の広域連携や外部委託推進</p> <p>直売所間の連携、活動の多角化・商品力・情報発信力強化</p> <p>農業体験・農泊組織と直売所等との連携強化、情報発信力強化</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>集落環境の保全</p> <p>地域ぐるみで稼ぐ体制の構築</p> <p>地域の活性化</p> </div> </div> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <p>集落機能の維持・強化 地域の活力復活</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	サービス事業者等活用集落数 (長崎西彼・県央地域計)	-	8集落	令和5年
	アグリビジネス売上額(直売所・農泊(日帰り体験を含む)) (長崎西彼・県央地域計)	61.6億円	75.4億円	令和5年

地域	長崎西彼・県央			
名称	県産木材の生産拡大と林業事業者の確保・育成			
内容	<p>○林業版産地計画に基づく計画的な搬出間伐と主伐・再造林の実施を推進し、県産木材の安定供給を図ります。</p> <p>○林業事業者が策定する産地計画の着実な実行を支援し、事業量の拡大と生産性向上を図り、林業事業者の確保及び所得向上に取り組みます。</p> <p>○林業事業者の生産性向上を図るため、人材育成プログラムの実行支援や技術向上の教育について支援します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 30%;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早くから搬出間伐を積極的に取り組んだ地域では間伐が必要な林分が減少 林業事業者の高齢化による離職や新規就業者の不足により、生産性の向上が進んでいない 林業事業者としての経験や技術の習得に長時間を要する </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【地域の対応と成果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 30%;"> <p>林業版産地化計画に基づく計画的な搬出間伐と主伐・再造林の実施</p> <p>林業事業者の人材育成プログラム等を支援</p> <p>生産性の高い木材生産作業システムの構築</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>県産木材の生産拡大と森林資源の循環利用</p> <p>新規林業事業者の確保・所得向上</p> <p>林業事業者の生産力向上</p> </div> </div> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <p>生産性の高い木材生産体制の構築による県産木材の生産拡大</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	林業就業者数	138人	140人	令和5年
	木材生産量	52,534m ³	58,700m ³	令和5年

1 農林業・農山村の概要（現状と課題）

- 島原半島地域は、島原市、雲仙市、南島原市の3市からなり、雲仙普賢岳を中心とした丘陵地帯と有明海及び橘湾の海岸沿いに広がる平野部からなります。
- 耕地面積は11,230haで、総土地面積に対する耕地率は24%であり、県全体の10.9%に比べかなり高くなっています。そのうち、畑地の割合が63.8%で、県平均の54.4%に比べ高く、畑作中心の農業が盛んです。恵まれた気候・土壌条件を活かした園芸や畜産等の農業が展開され、農業産出額は県全体の48%を占めており、本県を代表する農業地帯となっています。
- また、森林面積は、19,851haで、総土地面積の42%を占めています。このうち民有林が12,786ha（64%）、国有林7,065ha（36%）となっています。民有林における人工林面積は7,716haで、人工林率は60%に達しており、これら人工林のうち36年生以上が7,180haと93%を占めています。
- 認定農業者数は、令和6年3月末で2,238経営体となっていますが、減少傾向にあるため、認定農業者をはじめとした担い手を確保していくために、生産部会等と連携した多様なルートから就農希望者を受け入れる体制を整備し、より一層の新規就農者の確保が必要です。また、高齢化の進展により労働力が不足しているため、外国人等の多様な人材・組織を活用した労力確保対策の強化が必要です。
- さらに、今後の担い手の減少や温暖化等の栽培環境の変化に対応するため、農地の基盤整備を強力に進めるとともに、担い手への農地集積の促進やスマート農業等新技術の活用、気候変動対策等で生産性の高い持続可能な産地づくりが必要です。
- 品目別では、いちごについては、多収性品種「ゆめのか」、「恋みのり」の特性を活かした環境制御技術の導入が進んでいます。更なる生産性向上のための技術の確立と幅広い普及が必要です。
- ばれいしょ、だいこん、にんじん、ブロッコリー、レタス等の露地野菜については、基盤整備地などを中心に、機械化体系の確立による省力化を図り、規模拡大を推進するとともに、スマート技術の導入による更なる省力化、生産性の向上を図る必要があります。
- 花きについては、栽培施設の高度化を進め、法人経営体の育成を図る必要があります。
- 葉たばこについては、産地規模が縮小しており、作業の省力化を図る必要があります。



基盤整備地区でのにんじん栽培



基盤整備地区でのブロッコリー栽培

- 肉用牛については、畜産クラスター等の取組により経営の効率化、高度な牛群の整備、自給飼料の増産等を進めるとともに、ICTを活用した労力軽減、前期粗飼料多給の普及による出荷時期の適正化等により生産性の向上を図る必要があります。
- 酪農、養豚、養鶏については、担い手の確保や飼養施設の高度化、ICTを活用した労力及び生産コスト縮減、家畜排せつ物の利用と半島外への搬出による窒素負荷の適正化を進めるとともに、家畜防疫対策の徹底に取り組む必要があります。
- 菌床しいたけの生産量は約1,500 tで県内の6割を占める産地となっていますが、生産コストが上昇しており、品質と生産性の向上について支援していく必要があります。
- 森林は、国土の保全、水源のかん養等の多面的機能の発揮によって、生活及び経済に大きく貢献しています。近年は、森林の地球温暖化防止機能も重視されるようになり、二酸化炭素の吸収源としての森林の整備の積極的な推進も求められるなど、戦後造林された人工林を中心に本格的な利用期を迎えた森林資源の循環利用と、森林の持つ多面的機能の維持・向上を図るための適切な森林整備が必要です。
- また、地域ビジネスの展開や安心して暮らしやすい環境の整備により、地域の担い手を増やし集落機能の維持に努めることが必要となっています。



畜産クラスター計画に基づく牛舎の整備



皆伐地における木材搬出作業

2 島原地域の農林業・農山村の将来像

- 島原地域は肥沃な土壌、温暖な気候に恵まれ、園芸や畜産などの多様な農業が展開され、農業が基幹産業となっています。
- 農業従事者の減少と高齢化が進む中、産地とJA等関係機関が連携し、次代の地域を支える担い手の確保・育成に向けた取組を強化します。
- 農地の基盤整備の促進と農地中間管理事業の活用により担い手への農地集積を加速化します。
- さらに、外国人等の多様な人材の活用による労力確保対策の強化を図り、力強い経営力を持った経営体の育成を進め、農業を生業として選択する後継者が育つ地域を目指します。
- スマート農業等の新技術の導入や気候変動対策、農業のグリーン化を推進し、環境と調和した収益性の高い農業の実現に取り組みます。
- 特にいちごについては、環境制御技術の更なる活用による所得向上、ばれいしょ、だいこん、にんじん、ブロッコリー、レタス等の作付拡大、花きについては栽培施設の高度化、畜産については、コスト縮減と生産性向上、家畜防疫対策の強化を図ります。
- 健全な森林へ誘導するために人工林を中心に搬出間伐等の森林整備を推進し、搬出された木材は木材市場や木質バイオマス施設等へ出荷することで、木材の安定供給体制の強化と県産木材の利用拡大に取り組めます。特用林産物である菌床きのこについては、低コスト化と品質向上に取り組めます。
- 農山村地域の集落機能を支える多様な人材の活用を推進するとともに、直売活動などの地域ビジネスに取り組む活力ある農村社会の構築を目指します。

3 地域別・産地別の戦略の展開（島原振興局）

地域	島原			
名称	次世代農業を支える人材と強い経営力をもった経営体の育成・支援			
内容	<p>○農外から就農希望者を呼び込み、農業後継者を呼び戻して育成するため、産地計画・担い手育成計画の実践等産地の受入体制の充実と情報発信に取り組み、担い手の確保を図ります。</p> <p>○新規就農者の円滑な経営開始と産地の維持・拡大に向けて、園芸団地の整備等を推進します。</p> <p>○若い世代に職業として農業を選択してもらうため、農業高校や農業大学校等の教育機関と連携し、農業の魅力の情報発信に取り組みます。</p> <p>○認定農業者の所得向上に向けた個別支援を実施し、経営規模の拡大や法人化、経営継承を支援し、強い経営力を持った担い手の育成を推進します。</p> <p>○外国人等の多様な人材や農業支援サービス事業者等の活用による労力確保対策を推進します。</p>			
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化や後継者不在等により、認定農業者が減少し、担い手確保が喫緊の課題 ・他産業との競争により、若い世代の担い手及び労働力の確保が難しくなっている ・資材価格高騰により初期投資や規模拡大への負担が大きい </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地計画・担い手育成計画に基づく産地への支援 → 産地自ら就農希望者を呼び込み育成 教育機関との連携強化 青年農業者活動支援 就農準備から計画的支援 → 若い世代が農業の魅力を実感 新規就農者の定着 専門家等を活用し課題（規模拡大・法人化・継承など）の解決を支援 → 経営力向上による収益性改善 多様な人材・組織による労働力確保 → 地域農業の維持・拡大 </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <p>新たな担い手と強い経営体育成による産地・地域の活性化</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	新規就農者数	82人	101人	令和6年
	産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数	0産地	40産地	令和6年
	認定農業者数	2,238経営体	2,116経営体	令和5年

地域	島原			
名称	農地の生産基盤の強化と担い手への農地集積の推進			
内容	<p>○畑地帯における基幹作物の規模拡大や水田地域での園芸品目の導入を加速化するために、農地の基盤整備を推進します。</p> <p>○農業水利施設について、適期更新等により、施設の機能を持続的に保全するための取組を推進します。</p> <p>○地域計画の実現に向け、農地中間管理事業を活用した担い手への農地の集積・集約を進めます。</p>			
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜地などの条件不利地において、荒廃農地が増加 ・資材価格や人件費の高騰による水利施設の維持管理費の上昇 ・高齢化等に伴う担い手の減少 </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農地の基盤整備 → 生産性の向上 計画的な施設更新 → 維持管理コストの低減 農地中間管理事業を介したマッチング → 地域内外からの担い手の確保 </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <p>担い手への農地の集積・集約による経営規模の拡大</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	水田の整備面積	1,758ha	1,764ha	令和6年
	畑地の整備面積	1,959ha	2,177ha	令和6年
	担い手の農地利用集積率	47%	70%	令和6年

地域	島原			
名称	環境変化に強く生産性の高い産地の育成			
内容	<p>○水稲や野菜、花き、果樹では、省力化や高品質化、高収量化を図るため、スマート技術の導入や高度化等を推進し、産地の維持・拡大を図ります。</p> <p>○野菜や花き、果樹では、夏季の高温や冬季の寒害に対応するため、新技術や新品種導入等を推進し、気候変動に対応した産地づくりを進めます。</p> <p>○水稲や野菜、花き、果樹では、環境への負荷低減と持続可能な生産体制を構築するため、農業のグリーン化の取組拡大を図ります。</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	水稲栽培における省力・低コスト技術の導入面積	5.7ha	60.0ha	令和6年
	施設野菜における環境制御技術導入面積	7.1ha	22.8ha	令和6年
	施設花きにおける環境制御技術等導入面積（環境制御）	10.2ha	16.2ha	令和5年
	施設花きにおける環境制御技術等導入面積（高温対策）	14.0ha	24.0ha	令和5年
	産地計画策定産地における樹園地継承面積	2.5ha	2.5ha	令和6年
	ながさきグリーンファーマー認定数	123経営体	558経営体	令和6年

地域	島原			
名称	スマート畜産等の推進による生産性・収益性の向上			
内容	<p>○肉用牛、酪農、養豚、養鶏では所得向上及び経営リスクの低減を目指し、ICT等を活用した労力軽減、分娩間隔の短縮、事故率の低減を推進します。</p> <p>○優良繁殖雌牛・高能力乳用牛・多産系母豚などの高能力家畜類の導入を推進し、収益性の向上を図ります。</p> <p>○畜産クラスター計画等に基づき、家畜及び自給飼料の生産基盤強化や飼養管理技術の向上を図り、持続的で次世代に継承可能な生産基盤の維持・強化を目指します。</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）	398日	380日	令和5年
	肥育牛（肉専用種）の枝肉重量の増加（肉用牛）	520kg	530kg	令和5年
	経産牛1頭当り生乳生産量	8,686kg	8,800kg	令和5年
	母豚1頭当り年間肉豚出荷頭数	22.7頭	25.0頭	令和5年

地域	島原			
名称	生産性の高い木材・特用林産物生産体制の構築			
内容	<p>○林業の担い手確保を図るため、林業事業者の産地計画の実行支援による経営基盤の強化を図るとともに、林業事業者への新規就業や林業以外の業種からの新規参入を促進します。</p> <p>○素材生産性や安全性の向上及び労働負荷の低減に向けて、新たな作業システムの構築やスマート林業の推進を図ります。</p> <p>○菌床きのこの品質と生産性の向上を図るため、害菌対策や施設内の温度管理等の改善を県農林技術開発センター等と連携して支援するとともに、生産体制のスマート化を推進します。</p>			
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就業者数が少なく、定着率も低いため、間伐等の事業量が横ばい ・新たな作業システムやICT機器を活用した生産性向上及び安全対策等が必要 ・菌床きのこの生産について、資材価格や光熱費高騰により経営を圧迫する中、さらなる生産性向上が必要 </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「産地計画」実行支援及び新規参入者向け研修の実施 → 林業事業者の経営基盤向上及び林業担い手の確保 新たな作業システムやスマート林業の構築 → 素材生産性・安全性の向上及び労働負荷の低減 試験研究と連携した生産改善及び生産体制のスマート化 → 菌床きのこの品質・生産性向上 </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <p>島原半島における林業・菌床きのこの産業の活性化</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	林業就業者数	19人	20人	令和5年
	木材生産量	14,504m ³	13,500m ³	令和5年

地域	島原			
名称	農山村集落の多面的機能の発揮に向けた資源保全活動の展開			
内容	<p>○農山村集落の多面的機能を維持するため、地域の共同活動や企業等の多様な人材の活用を推進します。</p> <p>○集落ぐるみで取り組む鳥獣害対策（防護・棲み分け・捕獲の3対策）を進めるとともに、ICT等の新技術を活用した対策の効率化を図ります。</p> <p>○地域の特色を生かした産品づくりや直売所・農泊等による観光交流を増加させ、アグリビジネスの拡大を図ります。</p>			
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化や集落戸数の減少により、多面的機能の維持が危惧される ・鳥獣害3対策の実施が不十分 ・特色ある土地条件や農産物が活かされていない </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業等の多様な人材の活用 → 多面的機能の維持 ICT等の新技術を活用した効率的な3対策の実施 → 鳥獣を寄せ付けない集落づくり 産品づくりや直売所・農泊等による交流促進 → アグリビジネスの拡大 </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <p>農山村集落の維持・活性化</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	サービス事業者等活用集落数	-	6集落	令和5年
	野生鳥獣による農作物被害額	25百万円	16百万円	令和5年
	アグリビジネス売上額(直売所・農泊(日帰り体験を含む))	11.5億円	14.1億円	令和5年

地域	島原			
名称	農山村地域の防災・減災対策の推進			
内容	<p>○農山村地域を災害から未然に防止するため、豪雨・地震により決壊した場合、下流域に甚大な被害が及ぶ恐れのある防災重点農業用ため池の整備を推進します。</p> <p>○自然災害を未然に防止するため、山地災害危険地区において治山工事を計画的に着手するとともに、災害発生時には迅速な対策工事を行います。</p> <div style="text-align: center;"> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	防災重点農業用ため池の整備促進	28箇所	40箇所	令和6年
	山地災害危険地区着手数	87箇所	96箇所	令和6年

1 農林業・農山村の概要（現状と課題）

- 県北地域は、中山間地域や多くの離島・半島からなり、耕地面積は9,981haで県全体の約22%を占め、水田の割合（61%、県平均46%）が高く、農地の整備率は、水田56%（県全体62%）、畑23%（県全体25%）です。
- 森林面積は42,685haで、管内総土地面積の50%を占めています。このうち民有林が40,695ha（95%）、国有林が1,989haとなっており、民有林における人工林率は40%に達しています。これら人工林のうち、50年生を超えるものが63%を占めており、本格的な利用期を迎えています。
- 農業は、水稻と肉用牛、みかん、野菜、花き、茶、葉たばこを組み合わせた複合経営が多く、林業は、人工林の間伐を主体とした木材生産と特用林産物である菌床しいたけの生産が行われています。
- 認定農業者数は757名で、地域農業の担い手は高齢化に伴い減少傾向にあり、産地振興を進めるためには農地整備と担い手への農地集積・集約による経営の効率化や規模拡大が必要です。併せて労力不足が懸念されているため労力支援の強化が求められています。
- 新規就農者の確保については、産地主導型の就農ルートの中核組織として「JAながさき西海トレーニングファーム」が設立されたことも後押しして、毎年50名程度が新規に就農しています。
- しかしながら、昨今の資材価格高騰により就農にかかる負担が大きいことや好条件の他産業に人材が流れており、新規就農者に寄り添った支援や様々な手段を活用し就農希望者を呼び込む工夫が必要です。
- 一方、担い手が不足する地域では、新たな作業受託組織などの設立と既存組織の育成・強化が課題となっています。
- 森林整備を担う林業事業体の就業者については、事業体の経営向上に必要な事業量に対して雇用されている就業者数が不足しているほか、他産業と比較して年収が低い傾向にあることから、新規就業者の確保や労働生産性の向上に加え、既存就業者の処遇改善が課題となっています。
- 品目別では、水稻では品質向上のため高温耐性品種への転換や生産者の高齢化、担い手不足の中で栽培面積を維持することが課題です。
- 西海みかんは、ブランド率が高く高単価で取引されていますが、気候変動による生産量や果実品質への影響が懸念されており、有効な対策の普及が必要です。また、産地規模を確保するために、樹園地を引き継ぐ仕組みづくりの検討や、1戸当たりの経営規模拡大に向けて、スマート技術の導入や生産基盤の整備を進める必要があります。
- 肉用牛について、生産コストの高騰等が要因と



かんきつ園の基盤整備



和牛共進会

なって経営を圧迫している状況にあり、さらには高齢化により飼養戸数は減少傾向にあります。全国有数の肉用牛産地を持続していくためには、担い手の経営規模拡大とスマート畜産技術等を活用した生産性の向上、優良雌牛への更新等により生産基盤強化を図る必要があります。

- 畜産全般において、畜産業に大きな影響を及ぼす家畜伝染病の発生予防や、生産性の低下につながる慢性疾病への対策、併せて畜産物の安全性を確保することが必要です。
- 施設野菜のうち、いちごでは環境制御技術の普及により単収は増加していますが、経営安定のためには技術の更なる向上を図る必要があります。また、露地野菜では担い手の高齢化や減少により、産地の維持が困難となっていることから、省力機械の導入及び担い手への農地集積・集約化が急務となっています。
- 花きでは、産地の維持・拡大のため、環境制御技術や気候変動対策の導入により品質や収量の向上を図る必要があります。
- 木材は、スギ、ヒノキの人工林が利用期を迎え、木材の供給可能量が増加していることから、需要に応じた生産性の高い安定的な木材供給体制の構築が求められています。
- 菌床しいたけは、平戸産に対する市場の需要が県内はもとより、九州内外からあることから、生産量の拡大及び生産コストの削減に取り組む必要があります。
- 農山村集落では、人口減少と住民の高齢化が顕著であり、将来にわたり農村環境を守っていくために集落間が連携した環境保全活動や作業の外部委託などの取組拡大が必要です。また、頻発化・激甚化する自然災害に備えて、防災重点農業用ため池や、山地災害危険地区の対策による安全・安心の確保が課題です。



木材生産（搬出間伐）

2 県北地域の農林業・農山村の将来像

- 県北地域は、中山間地域や多くの離島・半島からなり、まとまった平地が少ない土地条件ながら、水稻を中心に、肉用牛、みかん、野菜、花き、茶、葉たばこの複合経営など地域特性を生かした農業が営まれています。また、林業においては、利用期を迎えた森林資源を循環的に利用し、木材のほか、菌床しいたけなどの特用林産物の生産が行われています。
- 今後、担い手の確保・育成、産地強化及び集落づくりを軸に施策を推し進め、若者が魅力を感じ、地域の人たちが活躍する県北地域農林業の実現を目指します。
- 意欲的な担い手の確保・育成のため、農業では、JA トレーニングファームを中心に産地主導により新規就農者を呼び込み、産地と関係機関が連携して新規就農者をサポートすることで地域への定着を図ります。林業では、管内の高校等と連携した林業体験研修等の実施により、次世代の担い手を確保します。また、林業事業体による人材育成や処遇改善の取組を支援し、就業者の定着と安定的な人材確保を図り、生産性の高い木材生産体制の構築を推進します。
- 活気ある産地形成のため、農地の基盤整備と省力化や生産性及び安全性を高めるスマート農業・林業等新たな技術導入の加速化を図り、また、気候変動等環境変化への対応策を着実に普及することで、農産物の高品質化と安定した生産量を確保し、儲かる産地づくりを進めます。
- 安全・安心で暮らしやすい集落づくりに向けて、中山間地域等直接支払制度を活用した集落間連携やアウトソーシング化等による環境保全活動にかかる負担軽減、有害鳥獣に対する3対策（防護、棲み分け、捕獲）の推進による農作物被害防止、防災重点農業用ため池の整備や地すべり対策の実施による防災・減災を進め、そこに住み、働く人たちが快適に過ごせるような農村環境を整備します。

3 地域別・産地別の戦略の展開（県北振興局）

地域	県北																								
名称	産地主導による担い手の確保・育成と産地を支える農地の生産基盤整備の推進																								
内容	<p>○産地自らが、地域農業の魅力の発信を行い、就農希望者を受入れ育成する JA トレーニングファームを核とした次代の地域農業の担い手の確保・育成を図ります。</p> <p>○関係機関で構成する地域就農支援センターで就農希望者の情報を共有し、スムーズな就農に向け、各種補助事業や資金の活用を支援し、新規就農者の定着を図ります。</p> <p>○農地の基盤整備を推進し、生産性の向上・省力化による担い手の規模拡大や担い手への農地集積・集約化の加速化に努め、収益性の高い作物の導入・生産拡大を図ります。</p>																								
	<p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業従事者の減少と高齢化により産地が縮小 ・農業資材価格の高騰により、就農にかかる経費が増加 ・圃場の形状や道路事情等耕作条件が悪く、農地の集約が困難 <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> JA トレーニングファーム等による研修生受入れ → 新規就農者の確保 各種補助事業や資金の活用 → 新規就農者の初期負担軽減 農地の基盤整備、担い手への農地の集積・集約化 → 生産性の向上・省力化・担い手の規模拡大 <p>【目指す姿】</p> <p>安定した新規就農者の確保・育成や担い手の経営規模拡大</p>																								
KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状</th> <th>令和12年度</th> <th>現状年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規就農者数</td> <td>48人</td> <td>45人</td> <td>令和6年</td> </tr> <tr> <td>産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数</td> <td>0産地</td> <td>17産地</td> <td>令和6年</td> </tr> <tr> <td>認定農業者数</td> <td>757経営体</td> <td>716経営体</td> <td>令和5年</td> </tr> <tr> <td>水田の整備面積</td> <td>3,130ha</td> <td>3,158ha</td> <td>令和6年</td> </tr> <tr> <td>畑地の整備面積</td> <td>1,056ha</td> <td>1,059ha</td> <td>令和6年</td> </tr> </tbody> </table>		現状	令和12年度	現状年度	新規就農者数	48人	45人	令和6年	産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数	0産地	17産地	令和6年	認定農業者数	757経営体	716経営体	令和5年	水田の整備面積	3,130ha	3,158ha	令和6年	畑地の整備面積	1,056ha	1,059ha	令和6年
	現状	令和12年度	現状年度																						
新規就農者数	48人	45人	令和6年																						
産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数	0産地	17産地	令和6年																						
認定農業者数	757経営体	716経営体	令和5年																						
水田の整備面積	3,130ha	3,158ha	令和6年																						
畑地の整備面積	1,056ha	1,059ha	令和6年																						

地域	県北								
名称	ブランドみかんの安定生産によるかんきつ産地の活性化								
内容	<p>○樹園地の集積及び条件整備（かん水設備、省力樹形の導入など）を進めるとともに、スマート技術の積極的な導入を推進し、生産性の飛躍的な向上を図ります。</p> <p>○新規就農者に対する技術的・経営的支援、次世代への円滑な樹園地継承を支援し、かんきつ産地の生産力増大を図ります。</p> <p>○気候変動に対応した高品質果実生産技術及び優良品種の導入推進、労働力不足解消に向けた多様な人材・ツールの活用を検討し、ブランドみかんの安定生産を図ります。</p>								
	<p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化等が進むなか、条件不利な樹園地は借り手もないため、荒廃農地が拡大（栽培面積の減少が懸念） ・気候変動の影響によりブランド品の生産・出荷量が不安定 ・摘果、収穫の農繁期に労力が集中し、雇用労働力の確保が困難 <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 樹園地の条件整備及びスマート化 → 生産力の向上による産地強化 担い手支援・樹園地継承 → 担い手確保による産地規模の維持・拡大 気候変動に対応した栽培技術 → ブランドみかんの生産量維持・拡大 多様な人材・労力支援ツールの活用 → 労力確保システムの構築 <p>【目指す姿】</p> <p>ブランドみかんの安定生産によるかんきつ産地の活性化</p>								
KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状</th> <th>令和12年度</th> <th>現状年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産地計画策定産地における樹園地継承面積</td> <td>11.2ha</td> <td>11.9ha</td> <td>令和6年</td> </tr> </tbody> </table>		現状	令和12年度	現状年度	産地計画策定産地における樹園地継承面積	11.2ha	11.9ha	令和6年
	現状	令和12年度	現状年度						
産地計画策定産地における樹園地継承面積	11.2ha	11.9ha	令和6年						

地域	県北																				
名称	畜産の生産基盤強化による産地の維持・拡大																				
内容	<p>○ながさき県北畜産クラスター計画に基づき、生産基盤の強化を行い、肉用牛産地の維持・拡大を図ります。</p> <p>○スマート畜産の推進による分娩間隔の短縮等の生産性向上や省力化を図ります。</p> <p>○家畜導入事業等を活用した優良雌牛牛群の整備による購買者が求める優良子牛の生産拡大を図ります。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #f8d7da;">地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の高齢化、後継者不足による飼養頭数の減少 ・経営安定のためには、更なる分娩間隔の短縮が必要 ・子牛価格の低迷により、高齢牛の更新が進んでいない </div> <div style="margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #fff3cd;">【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> クラスター事業等の活用による飼養施設整備 → 中心的な経営体の規模拡大 スマート畜産による生産性向上 → 分娩間隔の短縮 家畜導入事業による高能力牛群の整備 → 優良子牛生産の増加 </div> <div style="margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #d4edda;"> <p style="text-align: center; background-color: #fff3cd;">【目指す姿】</p> <p style="text-align: center; background-color: #20a997; color: white; padding: 10px;">肉用牛産地の維持・拡大</p> </div> </div>																				
KPI	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #17a2b8; color: white;"> <th></th> <th>現状</th> <th>令和12年度</th> <th>現状年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）</td> <td>386日</td> <td>380日</td> <td>令和5年</td> </tr> <tr> <td>肥育牛（肉専用種）の枝肉重量の増加（肉用牛）</td> <td>497kg</td> <td>530kg</td> <td>令和5年</td> </tr> <tr> <td>経産牛1頭当り生乳生産量</td> <td>8,686kg</td> <td>8,800kg</td> <td>令和5年</td> </tr> <tr> <td>母豚1頭当り年間肉豚出荷頭数</td> <td>22.7頭</td> <td>25.0頭</td> <td>令和5年</td> </tr> </tbody> </table>		現状	令和12年度	現状年度	繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）	386日	380日	令和5年	肥育牛（肉専用種）の枝肉重量の増加（肉用牛）	497kg	530kg	令和5年	経産牛1頭当り生乳生産量	8,686kg	8,800kg	令和5年	母豚1頭当り年間肉豚出荷頭数	22.7頭	25.0頭	令和5年
	現状	令和12年度	現状年度																		
繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）	386日	380日	令和5年																		
肥育牛（肉専用種）の枝肉重量の増加（肉用牛）	497kg	530kg	令和5年																		
経産牛1頭当り生乳生産量	8,686kg	8,800kg	令和5年																		
母豚1頭当り年間肉豚出荷頭数	22.7頭	25.0頭	令和5年																		

地域	県北												
名称	施設園芸産地の活性化												
内容	<p>○環境制御技術が導入されているいちごにおいては、炭酸ガス局所施用や日射比例灌水など高度な環境制御技術の導入を図ります。併せて他の品目においても環境制御技術の導入を推進します。</p> <p>○花きにおいては、産地の維持・拡大のため、環境制御技術の導入を推進し、単収や品質の向上そして安定生産を図ります。併せて高温対策や高温耐性品種の導入により、夏季の生産性・品質向上を図ります。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #d4edda;">地域の取組</p> <p>【課題】</p> <p><施設野菜></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちごでは環境制御技術の導入が進んでいるが、他品目では導入が進んでいない ・いちごにおいては、環境制御技術の導入により単収向上が図られたが、経営安定のためには更なる高単収が必要 <p><花き></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営安定のためには、品質向上が見込める環境制御技術の導入が必要 ・夏季の高温により、収量・品質が低下し、病害虫の発生時期が長くなることにより防除が困難化 </div> <div style="margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #fff3cd;">【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> いちご以外の品目への環境制御技術導入拡大 → 生産性向上（単収・品質向上） 環境制御技術の高度化 → 経営の安定化 花きにおける環境制御技術の導入推進 → 単収・品質向上 花きにおける高温対策の推進 → 生産性・品質向上 </div> <div style="margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #d4edda;"> <p style="text-align: center; background-color: #20a997; color: white; padding: 10px;">施設園芸産地の維持・活性化</p> </div> </div>												
KPI	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #17a2b8; color: white;"> <th></th> <th>現状</th> <th>令和12年度</th> <th>現状年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設野菜における環境制御技術導入面積</td> <td>2.0ha</td> <td>3.3ha</td> <td>令和6年</td> </tr> <tr> <td>施設花きにおける環境制御技術等導入面積</td> <td>1.3ha</td> <td>8.3ha</td> <td>令和5年</td> </tr> </tbody> </table>		現状	令和12年度	現状年度	施設野菜における環境制御技術導入面積	2.0ha	3.3ha	令和6年	施設花きにおける環境制御技術等導入面積	1.3ha	8.3ha	令和5年
	現状	令和12年度	現状年度										
施設野菜における環境制御技術導入面積	2.0ha	3.3ha	令和6年										
施設花きにおける環境制御技術等導入面積	1.3ha	8.3ha	令和5年										

地域	県北			
名称	土地利用型作物や園芸作物の維持・活性化			
内容	<p>○水稲高温耐性品種の推進に加え、高密度播種栽培やスマート農業機械の普及による省力化・低コスト化技術を推進し水稲作付面積の維持を図ります。</p> <p>○水田の高度利用による園芸作物の推進については、近年問題となっている高温や干ばつなどの気候変動に対応した品目・品種・作型の見直し等を実施することで、安定生産を図ります。</p> <p>○耕作者の減少に伴う担い手への農地集積を図り、スマート農業機械を含む省力化機械の導入を推進します。</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	水稲栽培における省力・低コスト技術の導入面積	0 ha	143ha	令和 6年
	輸出に適応した茶園面積の拡大	12ha	24ha	令和 5年
	ながさきグリーンファーマー認定数	54経営体	184経営体	令和 6年

地域	県北			
名称	生産性が高い林業事業者の育成による県産木材の生産拡大			
内容	<p>○管内高校等と連携した林業体験研修の実施による林業への理解促進と担い手の確保に取り組むとともに、新規就業者への研修支援等により担い手の育成を推進し、林業事業者の事業量増加を通じて県産木材の生産拡大を図ります。</p> <p>○市町等で構成する協議会において担い手支援事業を実施し、就業者の処遇改善と定着促進を図ります。</p> <p>○林業生産管理システム^{※1}等のスマート技術の普及を推進し、林業事業者への導入を通じて、森林内作業の安全性及び労働生産性の向上、森林調査等の関連業務の省力化を図ります。</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	林業就業者数	43人	48人	令和 5年
	木材生産量	19,304m ³	23,100m ³	令和 5年

※1 林業生産管理システム：情報通信技術や人工知能などを活用し、作業現場ごとの安全管理、作業（日報）管理、素材（木材）管理を効率的かつ一元的に行うことができるシステム。

地域	県北			
名称	農山村集落の維持・活性化			
内容	<p>○農山村集落では集落間で連携し、環境保全活動や作業のアウトソーシング、スマート農業機械等の活用を推進します。</p> <p>○鳥獣被害対策として、防護対策（防護柵設置と管理）、棲み分け（生息地管理）、捕獲（個体数管理）の3対策を推進します。また、ICT等を活用した対策の効率化を促進します。</p> <p>○直売所間の連携を強化し、品揃えの充実による販売力の向上、地域流通及び情報発信の拠点としての機能を促進します。</p>			
	<p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農村の環境保全活動を支える人材が減少し、少ない人数でも維持できる仕組みづくりが急務 防護柵の設置方法や管理が適切でないため柵の効果を継続的に発揮できておらず鳥獣被害が抑えられていない 直売所に出荷する生産者の高齢化等により農産物の取扱量が減少しており売り上げが伸び悩んでいる <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集落間連携、外部委託、集落活動のスマート化の支援 → 農村の環境保全活動の維持 鳥獣被害3対策の推進 → 鳥獣被害の低減 直売所間の連携の強化の支援 → 直売所を核とした地域内流通の促進 <p>【目指す姿】</p> <p>農山村集落の活性化</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	資源保全活動取組面積	6,947ha	6,972ha	令和5年
	サービス事業者等活用集落数	-	4集落	令和5年
	集落営農法人・組織の受益面積	118ha	118ha	令和5年
	野生鳥獣による農作物被害額	90百万円	59百万円	令和5年
	アグリビジネス売上額 (直売所・農泊（日帰り体験を含む）)	33.7億円	41.2億円	令和5年

地域	県北			
名称	農山村地域の防災・減災対策の推進			
内容	<p>○近年、自然災害が頻発化・激甚化する中、下流に人家や公共施設等があり、豪雨等により決壊した場合に甚大な被害が想定される防災重点農業用ため池について、災害を未然に防止・軽減するための整備を計画的に進めます。</p> <p>○近年、台風や局地的豪雨などにより森林が崩壊し、大規模な災害に見舞われるケースがあるため、この対策として、治山施設や地すべり防止施設を計画的に整備し、山地災害から住民の暮らしを守ります。</p>			
	<p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 老朽化や、豪雨・地震耐性が低い防災重点農業用ため池が多い 地すべり地帯や離島半島が多く森林からすぐ海に至る地形であることから山地災害の危険度が高い <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災重点農業用ため池の計画的な整備 → 災害を未然に防止・軽減 治山・地すべり施設の計画的な整備 → 災害を未然に防止軽減 <p>【目指す姿】</p> <p>災害に強い安全・安心な農山村集落づくり</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	防災重点農業用ため池の整備促進	52箇所	64箇所	令和6年
	山地災害危険地区着手数	181箇所	196箇所	令和6年

1 農林業・農山村の概要（現状と課題）

- 五島地域は九州の最西端に位置し、長崎から西へ約100kmの海上に、西南から北東へ約150km（含む男女群島）に分布する島しょ地域です。対馬暖流の影響を受け、年平均気温は約17℃と温暖な気候です。耕地面積は4,944haで県全体の11%を占め、うち畑地の割合は70%（県平均54%）と高くなっています。民有林面積は40,734ha、そのうち18,058haをスギ・ヒノキなど人工林が占めており人工林率44%となっています。また、搬出間伐により木材生産が可能な8～12齢級（36～60年生）が全体の73%を占め森林整備の推進により木材生産拡大につながる資源量を有しています。
- 五島市の農業は畜産・畑作中心の経営形態で、肉用牛、養豚、野菜、葉たばこが主要な農産物となっています。また、温暖な気候を活かして、ブロッコリー、たかな、スナップえんどう、中玉トマト、かんしょ、夏かぼちゃ等が生産されています。
- 新上五島町では、地産地消につながる直売所出荷用の各種野菜等、焼酎やかんころ用のかんしょ、島外出荷品目のとうがらしなどが生産されています。
- 五島地域の総農家数は1,511戸と総世帯数の6%であり、過去5年間で309戸減少しています。農家数は年々減少しており、継続的な担い手や労力の確保と農山村集落の機能維持の取組が必要です。
- 五島ならではの特色ある農業を展開するにあたって、畑作物の生産拡大のため、整備率が低い畑の基盤整備の取組が必要です。併せて担い手へ農地を集積し、経営規模拡大を図るとともに産地を維持発展していく取組が必要となっています。
- また、県と連携した（一社）離島振興地方創生協会の支援により始まったバリューチェーンの構築は、物流拠点施設の整備に向けた取組が進んでいます。その一方で、取引先のニーズに合わせた農産物の生産と産地拡大が求められており、担い手の高齢化が進む中、労力の確保や栽培管理作業の省力化技術等の導入・普及が必要です。
- 五島は県内で有数の有機農業の取組地域で、五島市のオーガニックビレッジ宣言等もあり、有機農業への意欲がさらに高まっています。
- 肉用牛では繁殖牛の飼養規模拡大が進んでおり、ICTの活用による生産性向上が求められています。また、繁殖経営から一部一貫経営の取組が始まっています。
- 地域には木材を生産できる事業者が1者しかなく、労働力の不足により木材生産量が伸び悩んでいます。完全月給制や週休二日制導入など、就労環境改善の取組が進んでいますが、五島産木材の生産拡大には林業就業者の確保と島外出荷（販路拡大）が課題となっています。



ICTを活用した繁殖牛経営



畑の基盤整備

2 五島地域の農林業・農山村の将来像

- 五島地域では、担い手の減少と高齢化が進む中、新規就農者の確保・育成のため農業協同組合や農業法人等が主体となった産地主導型就農ルートの確立・強化を進め、担い手を確保します。
- また、担い手の確保や規模拡大に必要な基盤整備については、特に畑地での取組を推進します。併せて担い手へ農地を集積し、スマート技術の導入や労力支援システム、サービス事業体等の活用等により産地の維持拡大を目指します。
- 島外企業と連携した総合物流拠点「五島イノベーションセンター」の整備・活用を進め、青果用かんしょや契約かぼちゃなどにおける収量向上等の生産技術確立と栽培推進による生産量拡大に取り組み、バリューチェーン確立と新たな産地育成を通じた離島農業活性化を目指します。
- 農産物生産の省力化と収益性向上のため、水稻では高密度播種苗移植栽培等、野菜では作業省力化できる複合作業機等の導入を進めます。また、肉用牛では発情発見機器等のスマート技術等の導入・活用拡大を進めるとともに、経営安定化を図れる一部一貫経営の導入拡大を推進します。
- 有機JAS認証やながさきグリーンファーマー認定、五島市のオーガニックビレッジの取組等を通じて、「みどりの食料システム戦略」に沿った持続可能な環境に優しい農業技術の拡大に取り組みます。さらに、かんしょ、麦、米、茶などの有機JAS認証農産物の生産拡大に取り組むことで、農産物の付加価値向上や販路拡大を目指します。
- 林業事業体が策定している産地計画の実行による事業量拡大を支援するとともに、就労環境改善に向けた取組（所得向上・完全週休2日制など）をガイダンス等でPRし新規雇用者確保を推進します。また、木材生産拡大に向けて、搬出間伐・主伐の進捗管理の支援や効率的な材の搬出のために必要な路網整備の支援によりバイオマス材の島外出荷など五島産木材の販路拡大を目指します。
- 農山村集落が持つ資源や機能を適正に維持するとともに、地域の特色を生かした産品づくりやアグリビジネスを推進し、さらに近年増加傾向にある鳥獣害に対し、地域ぐるみでの総合的な被害対策を進めます。また、山地災害対策、防災重点農業用ため池の整備を進め、安全・安心で暮らしやすく賑わいのある農山村社会の構築を目指します。



青果用かんしょの畝立同時施肥



契約かぼちゃの栽培勉強会

3 地域別・産地別の戦略の展開（五島振興局）

地域	五島			
名称	離島農業活性化のためのバリューチェーン確立と新たな産地育成			
内容	<p>○バリューチェーンの要となる総物流拠点「五島イノベーションセンター」の整備活用を推進し、新たな販路拡大、高付加価値化などによる農業者の所得向上を支援します。</p> <p>○農作業の効率化、コスト縮減に必要となる生産基盤整備や省力化機械の導入、農作業支援隊等を活用した労働力確保を推進し、青果用かんしょや契約かぼちゃ等畑作物の生産量拡大を支援します。</p> <p>○農業協同組合や農業法人等が主体となった研修受入等、産地主導型就農ルートの確立・強化などの新規就農者の確保・育成に向けた支援体制の充実を目指します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 30%;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場販売のため単価が不安定、小ロットのため価格形成力が脆弱、荒天時の輸送 ・畑の基盤整備の遅れや労働力不足により、1戸あたりの経営面積拡大が限定的 ・産地の高齢化が進み、担い手が不足 </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【地域の対応と成果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">イノベーションセンターの整備、活用</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">新たな販路拡大 高付加価値化</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">基盤整備、省力化機械導入の推進 労力支援組織等の活用</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">青果用かんしょや契約かぼちゃの面積拡大</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">研修受入等産地主導型就農ルートの確立による就農定着</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">多様な就農者の確保・育成</div> </div> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;">人口増と農業者の所得向上による離島農業の活性化</div> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	新規就農者数	10人	17人	令和6年
	産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数	0産地	9産地	令和6年
	認定農業者数	246経営体	233経営体	令和5年
	産地計画策定産地の販売額（園芸）	15.4億円	15.8億円	令和5年
	畑地の整備面積	398ha	426ha	令和6年

地域	五島			
名称	スマート農業等の推進による省力化・収益性の向上			
内容	<p>○水稻では、高密度播種苗移植栽培等の導入を推進し、露地野菜では複合作業機の導入を進め、収益性向上や栽培管理作業の低コスト化、省力化を図ります。</p> <p>○肉用牛では、ICTを活用した発情発見率の向上による分娩間隔の短縮、経営安定化が図れる一部一貫経営を推進し、肉用牛の産地基盤強化に取り組みます。</p> <p>○担い手への農地集積・集約による農地維持が困難とみられる地域では、農業支援サービス事業者への作業委託による集落・農地等の維持を図ります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 30%;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稻や野菜の収益性の低下、高齢化による労力不足 ・肉用牛の規模拡大に伴う管理不足による生産性の低下 ・担い手への農地集積が困難な地域での作業効率の改善 </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【地域の対応と成果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">低コスト・省力化技術の導入</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">管理作業の省力化</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">ICT活用による発情発見率の向上</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">生産性の向上</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">農業支援サービスの委託推進</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">集落・農地の維持</div> </div> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;">省力化・労力支援による産地の維持拡大</div> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	産地計画策定産地の販売額（米）	3.1億円	5.7億円	令和5年
	水稻栽培における省力・低コスト技術の導入面積	0ha	45ha	令和6年
	繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）	389日	380日	令和5年
	肥育牛（肉専用種）の枝肉重量の増加（肉用牛）	439kg	530kg	令和5年

地域	五島			
名称	環境に優しい農法の導入・定着による産地形成・拡大			
内容	<p>○農業の活性化、生産者の所得向上のために、有機JAS認証やながさきグリーンファーマー認定を通じて、「みどりの食料システム戦略」に沿った持続可能で環境に優しい農業技術の導入拡大に取り組みます。</p> <p>○オーガニックビレッジを宣言した五島市等と連携し、かんしょ、麦、米、茶などの有機JAS認証農産物の生産拡大に取り組み、農産物の付加価値向上や販路拡大を目指します。</p> <p>○有機農業や環境保全型農業を担う新規就農者を確保・育成し、持続可能な産地形成・拡大を目指します。</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	ながさきグリーンファーマー認定数	9経営体	70経営体	令和6年
	新規就農者数	10人	17人	令和6年

地域	五島			
名称	賑わいのある安全・安心な暮らしやすい集落づくり			
内容	<p>○担い手の確保と優良農地の保全・活用のため、地域計画に基づき基盤整備等で農地集積と保全を推進するとともに、集落営農法人の後継者確保を支援し、持続可能な農業生産体制を構築します。</p> <p>○鳥獣被害対策の強化と農村環境の保全のため、地域ぐるみでの総合的な被害対策を推進するとともに、情報システム活用や捕獲従事者の育成により、戦略的で効果的な鳥獣被害防止体制を構築します。</p> <p>○地域資源を活かした「稼ぐ力」の向上のため、地域資源を活かした産品づくりや6次産業化を推進するとともに、直売所の機能強化と連携により販売力を高め、地域ぐるみで稼ぐ体制を構築します。</p>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	集落営農法人・組織の受益面積	130ha	130ha	令和5年
	野生鳥獣による農作物被害額	8百万円	5百万円	令和5年
	アグリビジネス売上額 (直売所・農泊(日帰り体験を含む))	7.9億円	9.7億円	令和5年
	資源保全活動取組面積	2,779ha	2,789ha	令和5年
	畑地の整備面積	398ha	426ha	令和6年

地域	五島		
名称	五島産木材生産拡大による所得向上と災害に強い集落づくり		
内容	<p>○林業事業者が将来の事業量拡大と生産性向上による経営力強化を目指して策定した産地計画の実行支援や、就業環境の改善支援により、林業就業者の所得向上と新規雇用者の確保を図ります。</p> <p>○計画的な搬出間伐に加え、木材生産に適した人工林の主伐再造林に取り組むことで、五島産木材の生産拡大と島外出荷を推進します。また、効率的な路網配置や設計等について林道・林業専用道の開設・改良に取り組む市町を支援し、生産性向上を図ります。</p> <p>○自然災害を未然に防止・軽減するため山地災害危険地区における治山事業を計画的に実行し、防災重点農業用ため池の整備を進めることで、森林の防災機能強化と地域の防災力向上を図り、災害に強い集落づくりに取り組みます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少により新規就業者の確保が困難 ・木材生産拡大に向け計画的な搬出間伐の実施と主伐再造林への取組が必要 ・近年の雨量強度激化による山地災害の可能性増大、ため池の老朽化や施設の能力不足による安全性の減退 </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【地域の対応と成果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">産地計画実行支援 就業環境改善支援</div> <div style="font-size: 2em;">➤</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">新規雇用の確保・定着</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">搬出間伐実行管理支援 主伐再造林への取組支援 路網整備支援</div> <div style="font-size: 2em;">➤</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">木材生産量の拡大</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">治山事業の計画的実行 ため池の整備推進</div> <div style="font-size: 2em;">➤</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">危険地区の計画的な着手 安全性を備えたため池整備</div> </div> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;">木材生産拡大による所得向上 災害に強い集落づくり</div> </div> </div>		
KPI			
		現状	令和12年度
	林業就業者数	30人	32人
	木材生産量	7,521m ³	10,100m ³
	山地災害危険地区着手数	116箇所	129箇所
	防災重点農業用ため池整備促進	7箇所	13箇所
		現状年度	令和5年
		令和5年	令和5年
		令和6年	令和6年
		令和6年	令和6年

1 農林業・農山村の概要（現状と課題）

- 壱岐地域は県の北部、玄界灘に浮かぶ離島で、福岡県と対馬市の間に位置し、博多港から北西に76km、佐賀県唐津港から北に41kmの距離にあり、南北約17km、東西15kmのやや細長い形状の島で、総面積は139.42平方キロメートルです。
- 気温は県本土と比較し、年間を通して1～2℃低いものの、対馬暖流の影響を受け、比較的温暖な海洋性気候で、年平均気温は約16℃、年間降水量は約1,900mmです。
- 耕地面積は3,430haであり、耕地率は25%と県平均11%の倍近く、また2,180haある水田の基盤整備率は66%と県平均62%より高い状況です。
- 一方、畑地の基盤整備率は4%と県平均25%に比べ低く、森林面積も4,908haと県の2%ほど、さらに人工林面積は848haと県の1%程度と小さく、水田など平坦地が多く、人工林など森林が少ないことが特徴です。
- 主な作目として地域農業産出額の過半を占める肉用牛や県内第2位の平野である深江田原地区などでの水稻、麦、大豆、葉たばこ、飼料作物などの土地利用型作物栽培をはじめ、施設園芸（アスパラガス、いちご、メロン）や露地野菜（ブロッコリー・ばれいしょ）、花き（小ぎく）などの複合経営が主体です。
- 担い手に関しては農家戸数が減少傾向にあり、さらに販売農家1,142戸のうち、主業農家は262戸（割合23%）と県平均32%より少ない上、65歳以上の農家割合は72%と、県平均62%より高齢化がいち早く進んでおり、担い手の確保は急務となっています。
- このため、肉用牛やアスパラガス、いちごなどで新規就農を進めており、壱岐のブランドばれいしょである「壱岐黄金」の栽培拡大に向けた取組も進められています。
- 農地や地域農業経営を維持させる担い手として、集落営農育成の取組が進み、県の約4割にあたる39組織が設立され、うち32組織は法人化されています。
- 今後はさらなる少子化、若者の島外流出による担い手不足が危惧されるため、認定農業者や雇用型経営体などの中心的な担い手育成に加え、集落営農組織間の広域連携の取組強化が重要となっています。
- また、農地についても未相続農地や不在地主などの課題がありますが、地域計画に基づく地元協議等を通じ、農地中間管理事業を活用した担い手への農地の集積・集約化が求められています。
- 今後は収益性の高い農林業産地の育成に向け、技術の高位平準化、スマート農業の導入による作業省力化、品質の高い農産物生産を通じた新たな販路開拓やブランド強化に加え、基盤整備や農地集積、森林施業集約化の一層の加速化を図りながら、農商工連携や6次産業化による地域特性を生かした商品開発などの流通・販売対策が求められます。



壱岐における放牧



ドローンによる水稻の湛水直播作業

○品目では専業規模の肉用牛経営の育成など繁殖牛の飼養規模拡大を通じた長崎和牛「吉岐牛」の頭数拡大、放牧や自給飼料の利用拡大による生産経費の節減、及び水稻、麦、大豆などの土地利用型作物と園芸作物を組み合わせた水田農業の確立、高収益作物や新たな作型導入による産地拡充など、吉岐農業のブランド力向上も課題です。



関係機関と連携した移住就農相談会

○農山村環境面では人口減少対策として、高齢でも農業を継続できる体制づくりと併せ、スマート農機導入による省力化や、作業のアウトソーシングによる集落の所得向上対策を進めることが重要となってきます。

2 吉岐地域の農林業・農山村の将来像

○吉岐地域の農業発展のためには、平坦地が多いという地域条件を踏まえ、島の豊かな自然、貴重な歴史・文化などの資源、さらには大消費地である福岡市に近いという地理的優位性を最大限に活用し、高収益作物の作付拡大や加工品開発、そして都市圏向けの販路開拓・流通拡大が必要です。さらに島での観光・体験などと農林業の連携による関係人口の増加も必要です。

○そのためにも農業者が効率的かつ安定的な農業経営を確立することが重要であり、農業所得向上に向けた環境整備をはじめ、組織づくり、仕組みづくりを図りながら、若者の島外流出防止、U・Iターンの島への呼び込み、集落への定住促進による農山村集落の活性化を目指します。

○第1に、意欲あふれる経営力の高い担い手の確保・育成に向け、ワンストップでの就農相談受け入れ窓口として設けた担い手サポートセンターを活用し、トレーニングハウスやマルチワーカー制度^{※1}による多様な研修・就農体制による担い手の確保・育成を図ります。また、島内の学校等と連携した人材の掘り起こしを促進するとともに、集落営農組織や法人経営を受け皿とした継続的な雇用の拡大を進めます。

○第2に、生産性が高い足腰が強く活力ある産地づくりに向け、JA 吉岐市が導入を進めているアパートハウス^{※2}を活用した施設園芸品目の規模拡大や、ブランドばれいしょ「吉岐黄金」の栽培拡大による単価向上、基盤整備圃場への企業参入等による新たな施設園芸団地の整備推進、AI かん水装置や環境制御装置による単収向上により、産地力の向上と合わせ、生産持続性を両立させるために各種のイノベーション技術を用いて農業のグリーン化を図ります。

○また、吉岐地域の主要品目である肉用牛の産地維持のため、畜産クラスター計画に基づいた生産基盤強化を図ります。

○第3に、賑わいある安全・安心な暮らしやすい集落づくりに向け、県内でも先進的に組織された集落営農法人間の連携による集落作業のアウトソーシングや、集落農業の主軸である水稻栽培のドローンを活用した省力化、自動操舵田植機・トラクター等のスマート農機導入による担い手確保を推進するとともに、地域の特色ある農産物のブランディング支援を行うことにより集落の所得向上を図ります。

※1 マルチワーカー制度：地域の担い手不足を補うために複数の仕事を組み合わせて雇用を創出する制度。特定地域づくり事業協同組合が労働者派遣を行う。

※2 アパートハウス：施設園芸を始める（または規模を拡大する）際に大きな課題となる初期費用の負担を全額負担から、利用期間に応じた負担にすることで、新しい農業参入を支援する取組として、JA 吉岐市が整備した施設園芸用ハウス。島内農業への新規参入や移住者の増加、更なる園芸団地の造成など、今後の展開が期待される。

3 地域別・産地別の戦略の展開（吉岐振興局）

地域	吉岐																				
名称	地域・産地が連携した取組による多様な担い手の確保・育成																				
内容	<p>○市・農業委員会・農協・振興局で構成される吉岐市担い手支援サポートセンターの連携支援体制の強化を図ります。</p> <p>○農協の研修制度やトレーニングハウスを活用した実践的な研修（模擬経営）やアパートハウス、マルチワーカー制度等を通じて就農希望者の技術力・経営力の向上を図ります。</p> <p>○認定農業者や認定新規就農者を中心に農業所得向上に向けた資質向上研修や個別支援に取り組み、認定農業者の経営の円滑な継承、経営力の強い認定農業者を確保します。</p> <p>○地域を支える集落営農法人については省力化技術導入や経営課題に対応した支援等により次世代につなぐことができる経営体制や受益面積の維持に取り組みます。</p>																				
	<p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の産地を支える農業者の減少 ・就農希望者が農業経営を開始するために一定の技術力・経営力が必要 ・次世代に農業経営をつなぐ経営体の減少 ・集落営農法人構成員の高齢化、担い手不足 <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地と連携した担い手確保およびJA研修制度等の運営支援 → 新たな担い手の確保による産地の維持拡大、新規就農者の定着 認定農業者や認定新規就農者の個別支援 → 経営力の強い認定農業者の確保 省力化技術導入や経営課題に対応した支援 → 集落営農法人等の経営体制強化 <p>【目指す姿】</p> <p>地域・産地が連携した多様な担い手の確保</p>																				
KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状</th> <th>令和12年度</th> <th>現状年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規就農者数</td> <td>14人</td> <td>12人</td> <td>令和6年</td> </tr> <tr> <td>産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数</td> <td>0産地</td> <td>6産地</td> <td>令和6年</td> </tr> <tr> <td>認定農業者数</td> <td>272経営体</td> <td>257経営体</td> <td>令和5年</td> </tr> <tr> <td>集落営農法人・組織の受益面積</td> <td>692ha</td> <td>692ha</td> <td>令和5年</td> </tr> </tbody> </table>		現状	令和12年度	現状年度	新規就農者数	14人	12人	令和6年	産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数	0産地	6産地	令和6年	認定農業者数	272経営体	257経営体	令和5年	集落営農法人・組織の受益面積	692ha	692ha	令和5年
	現状	令和12年度	現状年度																		
新規就農者数	14人	12人	令和6年																		
産地計画に基づき担い手を呼び込む産地数	0産地	6産地	令和6年																		
認定農業者数	272経営体	257経営体	令和5年																		
集落営農法人・組織の受益面積	692ha	692ha	令和5年																		

地域	吉岐																
名称	スマート技術等推進による産地の維持・拡大並びに農業のグリーン化																
内容	<p>○園芸産地の維持・活性化に向け、アスパラガスでは、高畝栽培＋自動施肥かん水の実証・普及への取組、また、いちごにおける環境制御技術では、CO₂局所施用など高度化へ取り組みます。</p> <p>○規模拡大支援としてのアパートハウス普及、アスパラガスでの足場管ハウスの導入拡大、企業参入による雇用拡大や研修の受け皿の充実に取り組みます。</p> <p>○持続的な水田農業の発展に向けて、省力・低コスト技術（密苗栽培、直播栽培等）やスマート農機の導入推進等により、生産性の向上を図ります。</p> <p>○各品目において、ながさきグリーンファーマーの確保・育成に向け、制度の周知・認定申請支援の取組、吉岐地域に応じたグリーンな栽培体系の実証・確立に取り組みます。</p>																
	<p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産コストの高騰による収益性低下 ・生産者の高齢化による生産基盤の弱体化 ・グリーンな栽培体系の認知度不足と吉岐地域におけるグリーンな栽培体系の未確立 <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> スマート農業等への取組 → 作業の省力化および収量・品質向上 企業参入や研修体制充実 → 園芸産地の維持・拡大 グリーンな栽培体系の実証・確立 → グリーンな農業の普及 <p>【目指す姿】</p> <p>快適で儲かる持続可能な農業 吉岐地域における</p>																
KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状</th> <th>令和12年度</th> <th>現状年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設野菜における環境制御技術導入面積</td> <td>1.4ha</td> <td>2.2ha</td> <td>令和6年</td> </tr> <tr> <td>水稲栽培における省力・低コスト技術の導入面積</td> <td>48.5ha</td> <td>110ha</td> <td>令和6年</td> </tr> <tr> <td>ながさきグリーンファーマー認定数</td> <td>15経営体</td> <td>229経営体</td> <td>令和6年</td> </tr> </tbody> </table>		現状	令和12年度	現状年度	施設野菜における環境制御技術導入面積	1.4ha	2.2ha	令和6年	水稲栽培における省力・低コスト技術の導入面積	48.5ha	110ha	令和6年	ながさきグリーンファーマー認定数	15経営体	229経営体	令和6年
	現状	令和12年度	現状年度														
施設野菜における環境制御技術導入面積	1.4ha	2.2ha	令和6年														
水稲栽培における省力・低コスト技術の導入面積	48.5ha	110ha	令和6年														
ながさきグリーンファーマー認定数	15経営体	229経営体	令和6年														

地域	香岐			
名称	持続的かつ効率的な肉用牛生産と長崎和牛「香岐牛」の生産振興			
内容	<p>○畜産クラスター計画等に基づき、担い手の確保や規模拡大の推進、また施設整備や機械導入等の支援を行うとともに、共同利用施設等の有効活用を推進し、生産基盤の強化に努めます。</p> <p>○飼料成分分析や長崎型代謝プロファイルテスト等のデータを活用した飼養管理技術の向上を図り、繁殖牛群の栄養状態を良好に管理することで、分娩間隔の短縮や高品質な子牛生産を推進するとともに、コントラクターの育成や放牧の推進、スマート農業等技術の活用推進等による労力軽減を図ります。</p> <p>○畜産コンサルタントと連携した肥育技術の向上や、青刈りトウモロコシ等の自給飼料を活用した高品質かつ低コストな長崎和牛「香岐牛」の生産振興に努めます。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #f8d7da;">地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模高齢農家が多くを占める生産構造のため、農家戸数及び飼養頭数が減少傾向 ・飼料価格等のコスト高による収益性の悪化や、担い手不足等に伴う労力不足の深刻化 ・飼養頭数の減少による長崎和牛「香岐牛」ブランド力の低下 </div> <div style="flex-grow: 1;"> <p style="text-align: center;">【地域の対応と成果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>担い手の確保、施設等生産基盤の強化</p> <p>繁殖経営の生産性向上、労力軽減</p> <p>肥育経営の生産性向上、高品質化</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>肉用牛産地の維持・拡大</p> <p>持続的な繁殖経営の確立と高品質な子牛の生産</p> <p>「香岐牛」の生産振興とブランド力強化</p> </div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">香岐地域における畜産業の維持・活性化</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）	388日	380日	令和5年
	肥育牛（肉専用種）の枝肉重量の増加（肉用牛）	486kg	530kg	令和5年

地域	香岐			
名称	アグリビジネスの振興による地域活性化			
内容	<p>○ブランド牛「香岐牛」・有色良食味のブランドばれいしょ「香岐黄金」・「島メロン」等、地域の特色ある農産物の生産出荷体制整備及び（一社）離島振興地方創生協会や島内飲食店と連携したブランディングの取組を支援します。</p> <p>○地元農産物の流通拠点で魅力発信の場となっている直売所の経営発展支援を行い、地元農家の所得向上につなげます。</p> <p>○地域内外の資源を活用した集落作業のアウトソーシング、集落間の連携等により集落機能の維持に取り組みます。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #d4edda;">地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「香岐黄金」の規格外品が未活用であり、周期的なPRが不足、また、集出荷体制が脆弱 ・島メロンは生産者が高齢化し栽培面積・生産量が減少傾向 ・香岐牛は一定の知名度はあるが加工品が少ない ・直売所出荷者の高齢化による出荷者・出荷品目の減少 ・集落の担い手の高齢化等による作業負担の増加 </div> <div style="flex-grow: 1;"> <p style="text-align: center;">【地域の対応と成果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>香岐黄金の島内飲食店等と連携した加工品づくり及び生産量増加に対応するための集出荷体制の拡充（選果場整備）</p> <p>アパートハウスを活用した島メロンの生産量拡大</p> <p>香岐牛加工品の開発及び販路拡大支援</p> <p>直売所の経営発展支援</p> <p>地域内外の外部人材活用によるアウトソーシング、集落維持支援</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>ブランド農産物の安定供給の実現</p> <p>地域農産物の付加価値・知名度向上</p> <p>直売所の売上増 →地元農家の所得向上</p> <p>集落機能の維持</p> </div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">アグリビジネスの振興および集落の負担減による地域の維持・活性化</p> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	資源保全活動取組面積	3,095ha	3,107ha	令和5年
	アグリビジネス売上額（直売所・農泊（日帰り体験を含む））	7.0億円	8.5億円	令和5年
	サービス事業者等活用集落数	-	2集落	令和5年

1 農林業・農山村の概要（現状と課題）

- 対馬地域は九州最北端、日本海の西に浮かぶ南北82km、東西18kmの細長い島で、北端は大阪、南端は和歌山の緯度に位置し、博多港から海路138km、韓国・釜山まで49.5kmの国境の島です。
- 対馬全島の89%が森林で占められ、耕地面積は915haで総面積の1.3%と県内で最も低いことから大規模産地の育成は困難ですが、平均気温が本土よりも1～2℃低く、特に冬は厳しい季節風が吹く特色のある気候を活かした農林業が営まれています。しかしながら、担い手の減少や高齢化率の進行、後継者不足など厳しい状況下にあります。
- 農業は、水稻では「なつほのか」を中心に高温耐性品種が全体の44%を占めているほか「ヒノヒカリ」等も作付けされています。畜産では対馬あか牛（褐毛和種）の子牛生産が営まれており、熊本県家畜市場に出荷されています。野菜では島外出荷品目としてアスパラガス・ミニトマトが生産されており、ブロッコリーやばれいしょなどの露地野菜は島内出荷が主体となっています。そばは、コシと香りが強い対馬固有の品種「対州そば」^{※1}が栽培されています。共通の課題として生産性が低く生産規模も小さいことから、農業所得が低くなっています。さらに、対馬の農地は作土が浅く、地力が低いいため、農地への堆肥還元による土作りも必要です。また、イノシシやシカによる農作物被害がしいたけや森林にも拡大しており、地域ぐるみでの被害防止対策が今後の課題となっています。
- 林業では、民有林における人工林は10齢級以上が82%を占めており、森林経営計画に基づく計画的な森林整備や路網整備等により木材を安定的に供給していく体制づくりに取り組んでいます。今後の更なる素材生産拡大のためには、新規就業者の確保と定着、林業事業体の労働生産性を向上させていくことが重要となっています。
- 乾しいたけ（原木）は、県生産量の99%を占めていますが、原木しいたけの生産は昭和56年の473t（乾換算）をピークに令和6年は15tに落ち込んでいます。しいたけ生産者が高齢化により減少していること、また原木林が奥地化しているため、担い手の確保と安定した原木の確保が課題となっています。



対馬あか牛



対州そばの圃場

※1 対州そば：対州（対馬国の別称）在来のそばで、他産地のそばと比べると、食味・風味に優れ、苦味を有するというそばの原種に近い特性を有している。平成30年に国の地理的表示保護制度（GI）において、「対州そば」の名称が知的財産として登録された。

2 対馬地域の農林業・農山村の将来像

- 対馬地域においては、豊かな森林資源や冷涼な気候を活かして他産地と出荷時期をずらす等の特色ある農林業を展開し、農林業者の所得向上を図り、快適で安全な農山村の環境づくりを目指します。
- 新規就農者の確保・育成、認定農業者の経営目標達成に向けた重点支援、農地中間管理事業を活用した農地集積及び荒廃農地解消を進めます。水稻では、作業受託及び機械利用組合の組織化・法人化を推進するとともに、直播栽培や高密度播種技術の普及により、省力化・低コスト化を推進します。また、肉用牛、アスパラガス、そば等の生産対策については、栽培・飼養管理技術の改善等による生産量増大と安定生産及び高品質化、施設野菜の規模拡大や肉用牛飼養頭数の増加により農業所得向上を推進します。また、イノシシやシカによる農作物被害対策を推進します。
- また、地産地消を推進し、直売向け野菜、花き、果樹、加工品の生産拡大を図り、6次産業化とブランド化を進めます。
- ツシマヤマネコなど希少生物の住む豊かな環境に配慮した農林業を展開し、生き物ブランド米の生産を推進するとともに、グリーンツーリズムなどによる交流人口を増やすことで、地域の活性化につなげます。
- 林業においては、素材生産を拡大していくため、新規就業者の確保と定着のための支援を行っていきます。また、労働生産性の向上を図るため、高性能林業機械の導入支援や路網整備を行うほか、素材生産の拡大に応じた流通体制の構築を進めていきます。
- 森林の持続的な循環利用のために、高齢化した林分において、主伐・再造林を行い、保育施業の低コスト化に取り組んでいきます。併せて、植栽木やしいたけ原木林伐採後の萌芽枝のシカ等の食害への獣害対策を行っていきます。
- しいたけにおいては、生産量を維持していくため、原木林の適地確保を推進するとともに、販路の確保や販売価格の安定のため、市・JA等と連携して取り組みます。



防鹿ネット



原木しいたけのほだ場

3 地域別・産地別の戦略の展開（対馬振興局）

地域	対馬																								
名称	地域を支える担い手の育成と水田農業の推進																								
内容	<p>○水稻の高温耐性品種の作付を拡大し、コメの品質向上と生産量の増大により経営安定と所得向上を図ります。</p> <p>○直播栽培や高密度播種技術、スマート農業機械等の普及により省力化・低コスト化を図ることで、水稻で経営が確立できる経営体を育成します。</p> <p>○地域の担い手である認定農業者や集落営農組織等に対し、農地中間管理機構を活用した農地集積・集約支援に取り組みます。</p> <p>○人口減少や高齢化で保全管理が困難な集落の負担を軽減するため、集落保全活動を推進し多面的機能の維持・活性化に取り組みます。</p>																								
	<p>地域を取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み担い手が減少 ・温暖化の影響によるコメの品質低下 ・生産コストの高騰 ・作業効率が悪い農地が多く、荒廃農地が増加 <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水稻の高温耐性品種作付け推進 → 品質向上や生産安定による所得の確保 新規参入者や定年帰農者の就農促進 → 担い手の確保 省力化・低コスト化スマート農業の推進 → 作業の効率化による規模拡大 <p>【目指す姿】</p> <p>地域農業の維持</p>																								
KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状</th> <th>令和12年度</th> <th>現状年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規就農者数</td> <td>2人</td> <td>3人</td> <td>令和6年</td> </tr> <tr> <td>認定農業者数</td> <td>54経営体</td> <td>51経営体</td> <td>令和5年</td> </tr> <tr> <td>水稻栽培における省力・低コスト技術の導入面積</td> <td>0ha</td> <td>20.5ha</td> <td>令和6年</td> </tr> <tr> <td>ながさきグリーンファーマー認定数</td> <td>2経営体</td> <td>15経営体</td> <td>令和6年</td> </tr> <tr> <td>集落営農法人・組織の受益面積</td> <td>75ha</td> <td>75ha</td> <td>令和5年</td> </tr> </tbody> </table>		現状	令和12年度	現状年度	新規就農者数	2人	3人	令和6年	認定農業者数	54経営体	51経営体	令和5年	水稻栽培における省力・低コスト技術の導入面積	0ha	20.5ha	令和6年	ながさきグリーンファーマー認定数	2経営体	15経営体	令和6年	集落営農法人・組織の受益面積	75ha	75ha	令和5年
	現状	令和12年度	現状年度																						
新規就農者数	2人	3人	令和6年																						
認定農業者数	54経営体	51経営体	令和5年																						
水稻栽培における省力・低コスト技術の導入面積	0ha	20.5ha	令和6年																						
ながさきグリーンファーマー認定数	2経営体	15経営体	令和6年																						
集落営農法人・組織の受益面積	75ha	75ha	令和5年																						

地域	対馬								
名称	肉用牛（繁殖）の生産性向上による経営基盤の強化								
内容	<p>○地域の担い手を中心に、対馬あか牛等繁殖の生産性向上により産地の維持を図ります。</p> <p>○限られた農地を有効活用して飼料作物の栽培面積を拡大し、自給飼料の確保に努めます。</p> <p>○特定家畜伝染病防疫対策のため、家畜飼養農場の飼養衛生管理基準の遵守指導等を行います。</p>								
	<p>地域を取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み担い手が減少 ・少頭飼いの農家が多い ・高齢牛の更新が進まない ・作業性の高い農地が少なく、自給飼料確保が難しい <p>【地域の対応と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飼養管理技術の改善 高齢牛の更新推進 → 生産性の向上による所得の確保 JA 繁殖センターの活用 → 地域畜産振興の下支え 農地の集積・集約による効率的な飼料作物栽培 → 自給粗飼料の確保と飼料費の低減 <p>【目指す姿】</p> <p>繁殖牛経営規模の維持</p>								
KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状</th> <th>令和12年度</th> <th>現状年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）</td> <td>410日</td> <td>380日</td> <td>令和5年</td> </tr> </tbody> </table>		現状	令和12年度	現状年度	繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）	410日	380日	令和5年
	現状	令和12年度	現状年度						
繁殖牛の分娩間隔の短縮（肉用牛）	410日	380日	令和5年						

地域	対馬			
名称	林業の振興			
内容	<p>○搬出間伐及び主伐・再造林を推進し、木材の増産に対応した供給・流通体制を構築します。</p> <p>○高性能林業機械の活用や路網整備により作業の効率化を推進し、林業経営の改善を図ります。</p> <p>○原木林の適地確保や核となるしいたけ生産者の品質向上及び販路の確保を推進し、原木しいたけの生産量を維持します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 30%;"> <p>地域の取組</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工林の高齢林率の増加 ・就業者不足と高い離職率 ・しいたけ生産者の高齢化と減少 ・原木林の奥地化 </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>【地域の対応と成果】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">高性能林業機械の活用</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">作業の効率化と労力不足の解消</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">主伐・再造林の推進</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">木材の増産</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">原木林の適地確保</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">原木の安定供給</div> </div> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>【目指す姿】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f08080; color: white; writing-mode: vertical-rl;">持続可能な林業の推進</div> </div> </div>			
KPI		現状	令和12年度	現状年度
	林業就業者数	119人	120人	令和5年
	木材生産量	73,693m ³	74,400m ³	令和5年
	しいたけほだ木（クヌギ苗木）の新植面積（累計）	0.25ha	7.5ha	令和6年